

第12回 CRC日本 学習会

揺さぶられ症候群(SBS)なら一時保護…？ 児童相談所は30年前の診断基準で親子を分離している

揺さぶられ症候群（SBS）と断じられ、子どもを児童相談所（児相）に一時保護され、乳幼児時期に親子分離等の重大な犠牲を強いられている事案が多発しています。CRC日本のオンブズマンにも複数の相談が寄せられています。

虐待防止の名目で、児相が一律に行っている SBSを理由とする一時保護に正当性はあるのか？

30年前の誤った古い医学基準で理不尽に親子を強制分離している児童相談所の一時保護は、子どもおよび親に対する虐待であり重大な人権侵害ではないのか？ 青木信彦医師による講演と強制分離の被害者である二人の母親の証言を聞き、「SBSだから」と単純に親子分離（一時保護）してしまうことの正当性について、最新の医学的視点および子どもの権利の観点から意見交換します。

昨年5月5日に開催した社会的養護に関するシンポジウムに続いて、子どもの権利条約日本（CRC日本）が社会的養護と子どもの権利に関する勉強会を開催するのはこれで2回目です。今後は「児相被害者」を一堂に会した集会を開き、どのような人権侵害があるかを共有する予定です。それらを類型化し、共通する児相の問題点を検討して、厚労省と交渉し、国連報告書に結びつけていきます。現在の児童相談所の一時保護のあり方に疑問や関心をお持ちの方をはじめ、多くの方のご参加をお待ちしています。

【日時】 2017年7月29日（土） 13:30～17:00

【場所】 としま南池袋ミーティングルーム 302会議室

http://www.toshima-mirai.jp/center/a_m-room/

東京都豊島区南池袋2-34-5 藤和第2ビル 3階

東京メトロ東池袋駅 徒歩4分 or JR池袋駅（東口）徒歩8分

【講師】 青木信彦医師とSBSの名で子どもを一時保護された被害体験者2名

【費用】 1,000円（資料代含）※当日、会場でお支払いください

【主催、問い合わせ先】 ※予約不要ですが、事前の出席連絡歓迎

子どもの権利条約日本（CRC日本） HP: <http://crc-nihon.com/>

メールアドレス: office@crc-nihon.com / 電話: 070-3838-1532 (林)

プログラム

- 13:30～ 受付開始
14:00～ 挨拶、講師、証言者の紹介（CRC日本 林）
14:15～ 講演および体験者による証言

「日本で定説となっているSBSについての医学的な判断、診断が欧米と比べて30年も古い基準が用いられていることが明らかになった」

講演：青木信彦氏（社会福祉法人慈生会ベトレヘムの園病院医院長）

証言1：木村友美氏（仮名：被害体験者）

証言2：矢野美奈氏（被害体験者）

- 15:30 休憩15分
15:45 意見交換、ディスカッション
16:30 まとめ（CRC日本 代表 福田）
16:45 終了

講師・証言者の紹介

■青木 信彦氏

ベトレヘムの園病院院長。東北大学医学部卒、日本脳神経外科学会専門医、東京都立多摩総合医療センター名誉院長。

日本では、SBSの診断基準として欧米と比べて30年も古い基準が用いられている一方で、虐待を見逃さないという大規模なキャンペーンによる虐待防止法の成果の裏で、false positive(冤罪)として虐待の汚名を着せられた家族の苦悩に光の当てられることはない。

同氏はすでに30年前に脳神経外科の世界的なトップジャーナル（J Neuro Surg）に日本に特有ともいふべき乳幼児急性硬膜下血腫を発表し、国際的にも注目されてきた。今回は乳幼児型急性硬膜下血腫（中村I型）を全て虐待とされる最近の本邦の危険な現状に対して、多数の経験を踏まえて、医学的な根拠から解説をお願いした。

■木村 友美氏(仮名)

被害者母。「揺さぶられ症候群」の疑いをかけられた当事者。児童相談所の介入を受け、約一年間子どもとの交流を制限された。

■矢野 美奈氏

被害者母。子どもが揺さぶられ症候群と診断され、2年10ヶ月児童相談所と闘い続けた。子どもが、家庭復帰後、「虐待とは何か？」に関心をもち、「のんびり親子」という団体を立ち上げて活動中。